

# 歴史を伝える「今福線」の魅力を探る

大畑 富紀

## 1. はじめに

広浜鉄道「今福線」の歴史は大変古く、広島と浜田を鉄道で結ぶことはこの地域の希望であった。今福が物流の拠点や広浜鉄道の駅が建設される予定地であったため、周辺の人々は「駅」と呼んでいた。また、私はこの地域の出身であり、中学の頃、鉄道事情は知らずとも長いトンネルを探索したことがある。今年は今福線を研究する分科会が発足したこともあり、かすかな記憶のある今福線を調査し、近年土木遺産にも認証された「今福線」の魅力とはなにかを探りたく参加することとした。

## 2. 鉄道の概要

広浜鉄道に関する文献を調べると、新線はこれまで計画されたことのないトンネル鉄道をつくりたいと検討を進めていたことがわかった。広島ー浜田間に89kmの鉄道を敷設、これをノンストップの特急だと55分で結ぶという計画だ。今福線11.8kmのうち2/3の8.3kmはトンネル、浜田市内1箇所半径300mがあるだけで、あとは半径1000m以上の直線に近いコースのようだ。

また、縦断勾配は1000分の22以下(22‰)であり、以前のものより緩いものとなっていた。

ちなみに旧線は半径200~500m、縦断は市内で15‰程度、山間部で27‰程度と推測する。

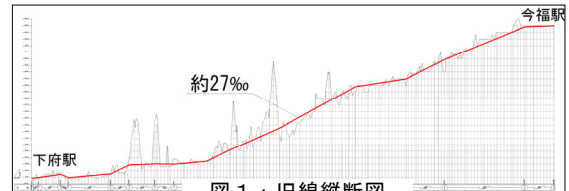


図1：旧線縦断面

## 3. 現地視察と路線の魅力

現地を視察すると様々な構造物や景観を楽しんだり、これまでの文献にない新たな体験をすることができた。以下に私が魅力を感じた箇所を紹介する。

### ・コウモリやツバメの住み家（環境）

新線の丸原トンネルを歩くと、足下はふわふわした感触であった。トンネルの上半部にはたくさんコウモリの生息が確認され、先ほどの感触は糞の上を歩いたためであった。また、今福橋梁にはコシアカツバメの巣が多数見つかった。



### ・新線と旧線の分岐点（景観、歴史）

浜田市佐野町には新線と旧線が分岐する地点があり、その双方の橋梁が現在も残っている。これは全国的にみても非常に珍しく「土木学科誌」も掲載され、現地視察や映画撮影が行われた有名な名所である。図2は現地で計測した断面図である。新線には0.8mの管理通路が設けられ、全幅は約6mであった。

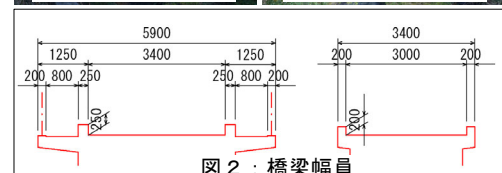


図2：橋梁幅員

### ・鉄道から高速道路へ（歴史、車社会）

浜田市宇津井町には旧線の今福線と高速道路が交差している箇所がある。写真5の右側は高速道路の橋脚であり、その設置場所は旧今福線の土地である。列車が走ることもなかった路盤の上に高速道路の橋脚が建てられており、車社会に移っていった歴史を感じさせる地点である。



### ・鉄道と県道のコラボ（有効活用）

浜田市宇津井町の県道の下には5連アーチ橋がある。下り側は地山+擁壁構造となっており、上り側はアーチ橋を利用している。鉄道橋を有効活用し、現在は道路として利用されている。この箇所も名所の一つであり、土木設計に携わる技術者には心をくすぐられる構造物である。



写真6：5連アーチ橋

### ・めがね橋の不思議な音響（体験、物理）

写真7の橋梁は今回の調査で新たな発見と地域活動を調べる上での手がかりとなった「めがね橋」である。河川からの水の音が反響し、あたかも橋梁の上部内に水が流れているように聞こえてくる。そのポイントは4径間の内、1m幅程度の1箇所だけであり、河川とアーチ橋が絶妙な位置関係にあることで反響していると考えられる。



写真7：不思議なめがね橋

### ・地域の保存啓蒙活動（住民参加）

今福線では自治会などで保存啓蒙活動が行われ、工夫をこらした独自の案内板を作成されていた。木材を使用したもの、L型擁壁を再利用したもの様々であった。また、めがね橋付近では自治会と寿会による記念碑が建てられていた。実はこの記念碑は、この箇所を含め名所旧跡として24箇所設置されていることもわかった。



写真8：めがね橋の記念碑

## 4. 石本先生を訪ねて

前述しためがね橋の音響を地元伝えるために、佐野町にお住まいの石本先生を訪ねた。石本先生は名所を残すため、佐野いろはカルタや記念碑の設置などの活動をされていた。このカルタは300部作成され、めがね橋は次のように歌われていた。『眼鏡橋おもかげ残す広浜鉄道』また、石本先生は今後の活動等について、次のようにお話された。



写真9：いろはカルタ

- ・広域であり危険な箇所が多いため、現地に行くことができない。
- ・佐野町から宇津井町かけて鉄道路盤を見えるようにしたい。
- ・営農組合は米作りだけではなく、地域興しの組合として活動している。かかしの村作りや鉄道跡を残し保存する活動を行って行きたい。

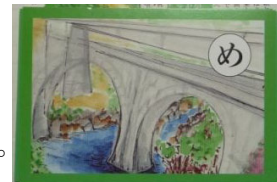


写真10：めがね橋の絵札

## 5. 課題と今後の展望

今回の現地踏査と石本先生への訪問を踏まえ、課題は以下の4点と考える。

- ・安全面；旧線と新線が分岐するアーチ橋では、子供たちも参加し、勉強会や視察が行われている。しかし、写真11のように手すりが老朽化しており、防護柵を設置するなど安全面を充実させないと、この先いつ事故が起こっても不思議ではない。
- ・資金面；自治会では看板などは設置できても、資金面から防護柵までは設置できない。
- ・活動団体（高齢化）；自治会、寿会も高齢となったため、若い力が必要である。
- ・過疎化（学校の合併）；これまでは総合学習で子供たちに伝えることでできていたが、佐野学校も統合の話があり、地域で故郷の文化や歴史を学ぶ機会が少なくなるのではないかと懸念されている。



写真11：老朽化した防護柵

今後は、遺構を後の世代に残すため、これら課題の一つでも解決するための方策の検討が必要である。そのため、新たな魅力の発掘や構造物の有効利用および安全対策の提案など地域に貢献できるよう、研究活動を続けたいと考えている。